

# 「大子漆」の伝統次代に

茨城

生産量の減少や後継者不足が深刻な大子町特産の「大子漆」を守ろうと、NPO法人と生産者らが5日町内に漆の苗木230本を植栽するとともに、保全活動の拠点施設をオーブンさせた。町も植栽地の確保やPRで協力し、今後、官民一体で生産拡大と人材育成に取り組む。

江戸時代水戸2代藩主の徳川光圀が植栽を奨励したとされる大子漆。透明度が高く、仕上がりが美しいことが、輪島塗などの高級漆器に使われてきた。ところが明治以降、安価な輸入品の台頭で国産漆が衰退。全国有数の产地の大子町でも、昭和63年に1120キロあつた生産量が、平成24年には187キロまで減少した。

また、生産者の高齢化によ

り、漆を探取する「漆搔き」技術の継承も課題となっていました。5年前に埼玉県から大子町に移住し、漆搔き職人とな

った岡慶さん(46)は、「幹に小さな傷をつけ、植物の生理作用で集まる樹液を『頂く』」というデリケートな作業。熟練者の知識と経験がなければ質の高い漆の生産は難し

## 苗木の植栽、後継育成へ拠点施設



漆の苗木を植栽する親子  
=5日午後、大子町池田  
(緒方優子撮影)

い」と危惧する。NPO法人「麗潤館」は、こうした大子漆の窮状を知った東京のギャラリー経営、矢崎孝子さんが昨年11月に発足させた。JR常陸大子駅近くの旧病院を改築して拠点施設を構え、漆の植栽や漆搔きの講習会などを生産者や町と連携して行う。矢崎さんは「職人の技術は財産。漆の伝統を守りつつ、新たな可能性も探つていきたい」と意気込む。

この日行われた苗木の植栽には、県内外から約80人が参加して生産者から指導を受けた。

ここ数年は開花時期が早まり、葉桜の下での公開が続いているが、今春は数年ぶりに桜の花をバックのお披露目となった。6日も午後1時と3時の2回、公開を予定している。

市による、消防士は1月にあった出火式で、翌夜、火災現場に出動し、ソイッターに「明日出初な

い」とお詫びの言葉を述べた。

市は、市の魅力を全国に発信する「みとの魅力」宣伝部長」を新たに設け、アイドルグループの「水戸

18歳の無職男2人

詐欺容疑で再逮捕

県警は5日までに、オレ

オレ詐欺の手口で現金をだまし取ったとして、詐欺容疑で逮捕された。

2人は同月14日に水戸市

に登場した。

水戸のアイドル 宣伝部長に

市長「魅力日本一 導いて」

の女性(67)から300万円をだまし取ったとして、詐欺容疑で逮捕された。

2人は同月14日に水戸市

に登場した。

水戸のアイドル 宣伝部長に

市長「魅力日本一 導いて」

の女性(67)から300万円をだまし取ったとして